



# 13カ国から22人、子供たちのトリノ

## “オリンピックの旗”日本代表「世界」を体験

今まさに世界の祭典に沸くトリノで、もうひとつのオリンピック・イベントが開催されました。その名も「ビザ・オリンピック・オブ・イマジネーション」。

冬のオリンピック競技をモチーフにしたフラッグデザインコンテストで、全世界13カ国、50万作品の中から選ばれた22人の“各国代表(日本から2人)”が、国境を超えて集結。2月8日から14日の期間に表彰式、競技観戦、各国の子供たちとの交流など、さまざまな体験をしてきました。街の熱気とともに、子供たちのオリンピックを一足早くお届けします。

### HALFパイプの技にうっとり。 競技場の雰囲気も最高でした！



授賞式は会場が大きくて、はじめに見た時はすごい緊張しました。世界中の人の絵をすべて見ることができて、皆とてもきれいでユニークな絵ばかりでした。結果は、さすがに1位は取れなかったけど、あとから2位だったと聞き、とても驚きうれしかったです。

トリノは、古い建物が並んでいて、思ったよりもさわがしくなく、好きな街でした。話しかけてくれる人も多く、街中でピンバッジの交換をしたり、イタリア語はよくわからなかったけれど、英語を話す人もいたので、勉強になりました。

観戦できた競技の中で一番楽しかったのは HALFパイプです。くるくると空中で宙返りするのがきれいで、見とれるほどでした。会場の雰囲気もとても盛り上がり、色々なことをしている人がたくさんいて、面白かったです。

けっこうハードな毎日になりましたが、食事も美味しく、他国の子どもと交流できて、とても楽しい旅行でした。

(ビザインターナショナル賞) 澤 千郷さん



表彰式会場のスケールに驚き

次は、待ちに待った競技観戦！ まずは女子アイスホッケーのロシア対スウェーデンの試合です。陽気な地元の人たちが足を踏み鳴らしたり歓声を上げたりととにかくエネルギーが試合はものすごくスピードで攻守が入り替わり、選手同士のぶつかり合う音やバックを打ち合う音が

表情に……。残念だけれど、今回はここでお別れ！ 次の北京オリンピックでは、どんな国の子供たちの表情が見られるのでしょうか？

表彰式会場のスケールに驚き



ピンバッジの交換でこんなに集まりました！足りなくなっていて歩いて走ることも

競技場の熱気を肌で体感！

言葉は違うけれど、皆同世代。最初は恥ずかしがっていた2人もビザ・インターナショナルからプレゼントされた作品のカードにサインをしたり、メッセージを書いてもらったりして、自然と交流が始まります。また、2チームに分かれて色紙や画用紙を使ったオリンピックの

聖火(トーチ)づくりにも挑戦。完成したトーチを掲げ、会場を1周すると「フラボー！」の喝采が沸き起こりました。短い時間ではあったけれど、最終日には、子供たちが皆自然と名残惜しそうな表情に……。残念だけれど、今回はここでお別れ！ 次の北京オリンピックでは、どんな国の子供たちの表情が見られるのでしょうか？

他の国の同級生と対面して

街はオリンピックムード一色



優勝したウクライナのウラジミール君(9歳)とその作品

参加することの意義、友好、フェアプレー、平和という理念を、世界中の若いアーティストたちが

アルプスの南側に位置するバルドネツキアで HALFパイプの男子決勝を観戦。軽快な音楽とDJが、たくさん国旗を埋め尽くされた客席を盛り上げます。市内に戻り夜はシヨルトトラックの応援へ。選手と観客が一体となった空間を子供たちも満喫していました。

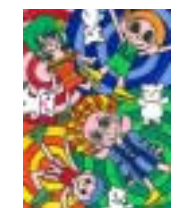


オリンピックの観戦チケット。競技をモチーフにした絵がどれもきれい

私には思いつかないような絵がいっぱい！

世界中から選ばれた絵は、私には絶対に思いつかないような構成、色の使い方があり、すばらしい作品ばかりでした。作品は旗となってトリノ市内に展示されていました。

会場に響き渡って、スリリングな展開に子供たちも釘付けです。翌日は車で移動し、

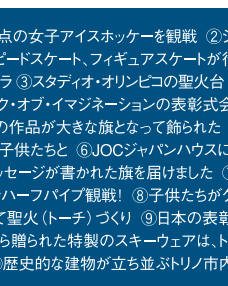
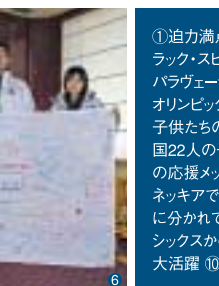


イタリアに来て、私は外国の人の陽気さに毎日驚かされてばかりでした。トリノ市内を歩いたときは、「Oh!! ジャポネ!?」「コンニチワ」といきなり話しかけられることがたびたびありました。どこに行っても、どの外国人も楽しそうに日本について知っている事や好きなアニメのことなどを話してくれました。レストランでは袋に「SAMURAI」「SAYONARA」と書かれたつま

ようじがあり、ちょっと感動しました。

オリンピックでは3種目の競技を観戦。中でも、アイスホッケーがとても印象的でした。ゴールめがけて敵同士激しくぶつかりあい、滑る姿はカッコ良かったです。また、生でオリンピックを見たいな〜。

(読売新聞社賞) 嵯峨万由子さん



①迫力満点の女子アイスホッケーを観戦 ②ショートトラック・スピードスケート、フィギュアスケートが行われるパルヴェーラ ③スタディオ・オリンピコの聖火台 ④ビザ・オリンピック・オブ・イマジネーションの表彰式会場には子供たちの作品が大きな旗となって飾られた ⑤13カ国22人の子供たちと ⑥JOCジャパンハウスに選手への応援メッセージが書かれた旗を届けました ⑦バルドネツキアで HALFパイプ観戦！ ⑧子供たちがグループに分かれて聖火(トーチ)づくり ⑨日本の表彰式でアシックスから贈られた特製のスキーウェアは、トリノでも大活躍 ⑩歴史的な建物が立ち並ぶトリノ市内を散策



次はあなたの番！ 2008年、北京で会いましょう。

読売新聞